

令和6年度第1回呉市教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））

選定委員会 会議録

日時	令和6年6月24日（月）14：30～16：30		
場所	呉市役所7階 755～758会議室		
参加者	選定委員会	呉市立中学校長会長	坪浦 敏美（広南中）
		校長	坂井 峰子（警固屋中） 白井 良枝（川尻中） 三谷 泉（蒲刈中） 工藤 孝之（両城中） 高野 辰彦（安浦中） 松田 光弘（広中央中） 浮田 秀樹（昭和中） 小方 幸恵（東畑中） 荒本 礼二（倉橋中） 坂田 恭一（呉中央中） 小林 浩樹（和庄中） 子川 眞二（横路中）
	聴取の意見	保護者代表	磯道 忠男 脇原 園美
学識経験者		吉長 成恭	
参加者	教育委員会事務局	教育部長	石川 直之
		学校教育課長	木屋 善貴
参加者	教育委員会事務局	学校安全課長	田村 峽平
		学校教育課課長補佐	藤井 眞實
参加者	教育委員会事務局	学校安全課課長補佐	河野 靖弘
		学校教育課主査	本谷 彰弘
参加者	教育委員会事務局	学校教育課主査	細川 裕香
		学校安全課主査	大栗 邦裕
参加者	教育委員会事務局	学校教育課指導主事	岡田 武士
傍聴者	佐々木 元（教育委員）		
内容	<p>1 令和7年度使用教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））の採択の手順及び選定委員会の任務等について</p> <p>2 議事</p> <p>（1）委員長及び副委員長選出</p> <p>（2）教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））の調査・研究の観点等について</p>		

委員長選出までの司会を細川主査が行うこととし、委員会は14：30に始まった。

◎ 呉市教育委員会石川部長の挨拶

- ・教科用図書の採択について
- ・教科用図書採択に係る誤記等と改善策・選定委員の役割について
- ・情報の公開

1 令和7年度の使用教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））採択の手順及び選定委員会の任務等について、資料に基づき、細川主査が説明をした。

2 議事

（1）委員長及び副委員長選出

委員長及び副委員長の選出を行った。立候補者がなかったため、事務局より中学校長会長の坪浦校長を委員長に、坂井校長を副委員長に推薦し、承認された。

（2）教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））の調査・研究の観点等について

司会を委員長に交代し、教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））の調査・研究の観点等についての議事に入った。

◎ 事務局の説明（5つの観点について）

藤井課長補佐が、調査・研究委員の部会に示す各教科の観点について、「広島県教育委員会が定めた『令和7年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について』に準じて作成し、広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と説明した。

◎ 5つの観点についての質疑・応答

なし

◎ 国語の説明（調査・研究の視点と方法について）

坂井校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【国語】」に基づき、説明を行った。

◎ 国語についての質疑・応答・意見交流

・坂田校長

観点「知識及び技能の習得」では、視点②「情報の扱い方に関する事項」と書いてある。国語科における「情報の扱い方」とは、どういうことか。

・坂井校長

国語科では、「思考力・判断力・表現力」を育成する上で、話や文章に含まれているものであれ、あるいは自分の中のものであれ、情報と情報との関係を捉えて理解し明確にして言葉を話にする、文章で表現することはとても重要なことである。

具体的に例を挙げる。「情報と情報の関連を捉えて理解する」場合、2つの情報があるとして、それらがどういう関係性にあるのか、例えば、原因と結果なのか、意見と根拠であるのか、そうした視点をもって情報を扱うこととなる。こうした視点は生徒が自然に学習できる、身に付けるものではないために、意図的に言語活動等を設定する必要がある。「情報の扱い方に関する事項」が、どのように示されているか調査する。

・坪浦校長

視点⑫「デジタルコンテンツの活用」について、国語科の中で扱うデジタルコンテンツというのは、具体的にどのようなものがあるのか。

・坂井校長

例えば、「知識及び技能」に関するデジタルコンテンツとしては、新出漢字についてのドリル学習や古典作品に関する資料がある。また、「書くこと」に関するデジタルコンテンツでは、教科書には載っていない生徒作品例の見本、あるいは「書くこと」以外に「読書」に関するデジタルコンテンツでは、読み物としての書籍の紹介等がある。これらの資料について、各教科書ではどのようなものを挙げているか調査する。

◎ 書写の説明（調査・研究の視点と方法について）

坂井校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【書写】」に基づき、説明を行った。

◎ 書写についての質疑・応答・意見交流

・荒本校長

視点④「他の学習や生活の様々な場面につなげるための工夫」とあるが、具体的にどういうことか。

・坂井校長

視点④というのは、書写で学んだことを教科の学習や生活の様々な場面との関連を図る活動の設定の仕方である。具体的に言うと、レポートを書くことや、学習発表会、文化祭等での看板製作、地域の方に読んでもらう新聞づくり、他者に贈る色紙、年賀状、御礼状等の作成など実際の生活で活用する場面が様々な考えられる。どのような場面が設定されているか調査・研究を行う。

◎ 社会（地理的分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

高野校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会（地理的分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会（地理的分野）についての質疑・応答・意見交流

・工藤校長

視点⑩に関する方法で、「ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント・グラフ及びレイアウト」について調査すると説明があった。ユニバーサルデザインとは、「全ての人にとって使いやすい」デザインのことと理解している。社会科の教科書には数多くのグラフが掲載されている中で、ユニバーサルデザインに配慮したグラフというのは、例えばどのようなものを調査しようとしているか伺う。

・高野校長

社会科では、資料から様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付けさせることが教科目標に示されている。どの学年の教科書にも数多くのグラフが登場する。グラフは、様々な情報を視覚的に理解しやすくする有効なツールであると理解しているが、教科書においては、例えば隣り合うエリア同士の色の違いが誰にでも区別しやすいよう工夫されていたり、グラフ内の複数データが区別しやすいよう工夫されていたりする等、色に配慮されているか、といった観点から調査することが考えられる。もちろんユニバーサルデザインは様々な観点があるため、色に限らず幅広い視点で調査していく必要があると思う。

◎ 社会（歴史的分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

三谷校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会（歴史的分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会（歴史的分野）についての質疑・応答・意見交流

・坂田校長

視点⑨「主権者育成のための工夫」について、「主権者育成」と聞くと、公民的分野というイメージが強く、歴史的分野の視点として設定されていることは意外に思う。歴史的分野の学習で主権者育成を行うことの意義について教えてほしい。

・三谷校長

確かに「主権者育成」というと、例えば日本国憲法の基本的な考え方や、政治・経済の仕組みに関する知識等、公民的分野で学ぶことが多いのは事実である。しかし、学習指導要領解説社会編を見ると、歴史的分野の「学習指導の改善充実等」では、主権者の育成の観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実が示されている。

具体的には「歴史的分野の目標、内容及び内容の取扱い」の中で、例えばギリシャ・ローマの文明で、「当時の政治制度について、現代につながる面と現代の民主主義とは異なる面の両面を踏まえて理解できるようにするなど主権者の育成の観点から留意する」とある。

こうしたことを踏まえ、歴史的分野においても主権者育成のための工夫がどのようにされているか調査する。

◎ 社会（公民的分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

三谷校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会（公民的分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会（公民的分野）についての質疑・応答・意見交流

・坂井校長

視点⑥に係る方法で、「各単元の導入における学習の見通しをもたせる手立て及び具体例」について調査・研究すると説明があった。生徒が学習の見通しをもつことは、主体的・対話的で深い学びを実現する上でどの教科においても大切なことだと思うが、社会科においては、どのようなことがポイントになるのか。

・三谷校長

学習指導要領解説では、「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で、「生徒が主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自分の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか」といった視点で授業改善を進めることが示されている。また、「生徒や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくこと

が重要」ともある。こうしたことを踏まえ、教科書において、特に導入段階で学習の見通しをもたせる手立てがどのように示されているか調査する。

◎ 地図の説明（調査・研究の視点と方法について）

高野校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【地図】」に基づき、説明を行った。

◎ 地図についての質疑・応答・意見交流

・坂田校長

視点④に係る方法で、「地図を活用した表現の記載の仕方及び具体例」とあった。生徒が「地図を活用して表現」というのは、例えばどのような学習なのか。

・高野校長

中学校学習指導要領解説社会編では、情報を読み取る技術に関わって、地理的分野の学習で用いられる資料は様々あるが、その中でも最も重要な役割を果たしているのが地図であると示されている。

地図を活用して表現するということ言えば、社会的事象を位置や空間的な広がり等を考慮して地図上で捉え、例えば、「内陸部で機械工業の工場が増加している背景は、地図で確認すると周辺に高速道路が整備されたことが関係していると思う」というような考えを述べるといった学習活動が考えられる。

そうした活用の仕方がどう示されているか、この視点では見取っていく。

◎ 数学の説明（調査・研究の視点と方法について）

浮田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【数学】」に基づき、説明を行った。

◎ 数学についての質疑・応答・意見交流

・荒本校長

視点④「問題発見・解決の過程を意図した活動の工夫」とあった。理科でも「探究の過程」というのがあるが、数学科における「問題発見・解決の過程」とは、どのような過程か。

・浮田校長

数学科における「問題発見・解決の過程」とは、主として2つの過程が考えられる。1つは、「日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する」過程、つまり、日常や社会の事象から問題を発見し、数学の舞台にのせて解決する過程である。

もう1つは、「数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する」過程、つまり、数学の事象から問題を発見し、解決する過程である。

数学科においては、この2つの「問題発見・解決の過程」が相互に関わり合って展開される。

・荒本校長

2つあるということがとてもよく分かった。また方法で「問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開例」とあるが、展開例とは例えば具体的にどのようなものがあるのか。

・浮田校長

学習指導要領解説の24ページに、具体例として次のように示されている。「幾つかの連続する整数の和に着目し、個別・具体的な場合を計算するなどして、そこにおいて成り立つ規則性に気づき、予想を立てる。そして、例えば『三つの連続する整数の和はいつでも3の倍数になるのだろうか』という数学的に表現した問題において、文字の式を用いてこの予想が正しいことを説明する。説明を終えた後でも、深い学びを目指して、問題解決の過程や結果を振り返り、新たに幾つかの整数の和に着目することで、『等間隔に並んだ整数の和』や『連続する奇数個の整数の和』、『連続する偶数個の整数の和』などについても、統合的・発展的に考察する。」このような過程を通して、粘り強く考え続けようとすることは、数学を創造的に学ぶ上で大切なことである。この度の調査・研究では、そうした展開例がどのように示されているか調べていきたい。

◎ 理科の説明（調査・研究の視点と方法について）

荒本校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【理科】」に基づき、説明を行った。

◎ 理科についての質疑・応答・意見交流

・工藤校長

視点③で「単元の導入において、課題を設定するための工夫」とある。どの科目の授業でも、生徒の主体的な学びを実現するために、導入を工夫することは大切だと思う。理科の授業で言えば、この「単元の導入において、課題を設定するための工夫」にはどのようなものが考えられるか。

・荒本校長

理科では、生徒が自然の事象に触れて何らかの気付きや疑問を抱き、それらを基に「解決すべき課題」を設定するところから学習がスタートする。そして、これまでの生活経験を基に「こうではないか」と仮説を設定し、それを確かめるための観察、実験計画を立て、いわゆる「探究の過程」と呼ばれる学習過程に沿って学習が展開していく。そのためには学習過程を生徒自身が主体的に進めることが大切で、スタート時の「課題の設定」はとても大切となる。例えば、教師が「今日はこれについて考えます」と一方的に課題を提示してしまうのではなく、生徒自身が「あれ？」とか「不思議だな」「なぜだろう」という感じになり、「解決していきたい」と思える課題を自分の言葉で設定することが大事である。

例えば、日常生活で利用している色々な製品が科学的な観点からどのような仕組みになっているのか、そのような工夫がどのように取り挙げられているか調査していく。

◎ 音楽（一般）の説明（調査・研究の視点と方法について）

小林校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【音楽（一般）】」に基づき、説明を行った。

◎ 音楽（一般）についての質疑・応答・意見交流

・坪浦校長

視点④に「音楽表現を創意工夫させるための工夫」とあるが、具体的にはどういったことか。

・小林校長

「音楽表現を創意工夫する」とは、学習指導要領49ページには、「音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて思いや意図をもつことである。」と示されている。例えば、旋律をつくる際、「落ち着いたある穏やかな感じ」というイメージをもち、「落ち着いたある穏やかな感じの旋律にするために、四分音符や二分音符を多めに使って旋律をつくりたい」などのような思いや意図をもつことが考えられる。そうした創作分野における音楽表現を創意工夫する学習の具体例を調査・研究する。

◎ 音楽（器楽合奏）の説明（調査・研究の視点と方法について）

小林校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【音楽（器楽合奏）】」に基づき、説明を行った。

◎ 音楽（器楽合奏）についての質疑・応答・意見交流

・工藤校長

視点⑤に「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わるための工夫」について設定されている。確かに、私たちの身の回りには、音や音楽があふれており、生活や社会の中の音や音楽と日常生活を関連付けた方が生徒の主体性を育みやすい。その中で「音楽文化に関する記載」とは、どのようなことを調査・研究するのか。

・小林校長

視点⑤の「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる」は、音楽科の目標とする資質・能力である。学習指導要領解説の12ページには、「音楽文化と豊かに関わるができるようになるためには、音楽科の学習において、音楽文化についての理解を深めていくこと

が大切になる。また、グローバル化が益々進展するこれからの時代を生きる子供たちが、音楽を、人々の営みと共に生まれ、発展し、継承されてきた文化として捉え、我が国の音楽に愛着をもったり、我が国及び世界の様々な音楽文化を尊重したりできるようになることも大切である。」と書かれている。

このことを踏まえ、様々な音楽文化に関してどのような記載がされているか調査・研究していく。

◎ **美術の説明（調査・研究の視点と方法について）**

白井校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【美術】」に基づき、説明を行った。

◎ **美術についての質疑・応答・意見交流**

・坂井校長

視点④「表現及び鑑賞の活動における言語活動の工夫」とあるが、美術科において言語活動はどのようなものが考えられるか。

・白井校長

中学校学習指導要領解説美術編では、言語活動の充実について、表現及び鑑賞の指導において、生徒がアイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などについて説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりすることが示されている。そうした言語活動を通じて、生徒は対象の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができる。各者で言語活動がどのように示されているか、具体例とともに調査していく。

◎ **保健体育の説明（調査・研究の視点と方法について）**

工藤校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【保健体育】」に基づき、説明を行った。

◎ **保健体育についての質疑・応答・意見交流**

・坂田校長

視点④に係って、「自分の考えを言葉や文章及び動作で表したり、理由を添えて伝えたりする活動」というのは、どのような具体があるか。

・工藤校長

例えば、第2学年では「傷害の防止」を扱う。

教師が一方的に「危険予測」や「危険回避」の知識を教え込むよりも、例えば生徒同士で過去に経験した怪我について話し合い、「何が危険だったか」「どうすれば安全に過ごせたか」について考えさせる方が、思考し、判断し、表現する学習方法の工夫につながりやすい。

こうした活動の工夫や具体例についてしっかり調査していきたい。

◎ **技術・家庭（技術分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）**

松田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【技術・家庭（技術分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ **技術・家庭（技術分野）についての質疑・応答・意見交流**

・坂井校長

視点⑥について、「社会の発展と技術について考えさせるための工夫」に係る方法の説明で、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとさせる記述を、調査・研究するという説明があったかと思うが、技術を工夫し創造しようとさせるということを、もう少し詳しく教えていただきたい。

・松田校長

資料の上の方、技術家庭科、技術分野の目標の枠、(3)をご覧いただきたい。(3)の後ろあたりに、技術を工夫し創造しようとするという言葉が、教科の目標に位置付けられている。技術分野においては重要なポイントとなっている。ものづくりを中心に行う技術分野においては、工夫や創造というのは当たり前のように思うかもしれないが、学習指導要領解説ではこのことは、「便利な生活を送りたいといった特定の側面から見た個人的な願いの実現を目指そう

とすることではなく、環境への負荷や安全性などの多様な側面で、作る場面、使う場面、廃棄する場面、万が一のトラブルの場面などを想定し、さらに、使い手だけでなく作り手の立場も意識してよりよい生活と持続可能な社会を構築するために技術を工夫し創造しようとする」と示されている。単に技能の習得を目指すといったものではないということが分かると思う。

技術分野の学習を通して、生徒にそういった実践的な態度が養われるように、教科書においては、どのように記述をされているのか、調査をしていきたい。

◎ 技術・家庭（家庭分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

小方校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【技術・家庭（家庭分野）】」に基づき、説明を行った。

◎ 技術・家庭（家庭分野）についての質疑・応答・意見交流

・工藤校長

視点③の「生活の中から課題を見いだすための工夫」の、調査の方法として、「学習過程の示し方及び具体例」とあるが、家庭科における学習過程とは、どのような過程をいうか。思考力・判断力・表現力等の育成にどうかかわるのか。

・小方校長

家庭科の学習過程については、今回、学習指導要領改訂において重視された内容の1つである。家庭科の指導にあたっては、生活の中から課題を見いだして課題を設定して、解決策を構想、そして計画、実践、評価、改善するという一連の学習過程を重視した問題解決的な学習を進めることが示されている。

また、これらの過程を踏まえて、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することによって、課題を解決する力を養うことも示されている。

従って、「思考力、判断力、表現力等」の育成という観点において、学習過程の示し方及び具体例を調査・研究していきたい。

・荒本校長

視点⑤「学習した内容を家庭や地域で実践するための工夫」は、主体的に学習に取り組む上でもとても大事なことだと思う。家庭科は、学習したことを身近な生活に生かすことができる教科だと思う。

例えば、実践するための工夫とあるが、具体的にどのような例があるのか教えていただきたい。

・小方校長

学習指導要領解説技術・家庭編において、122ページにあるが、技術・家庭科における「主体的な学び」とは、「現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から課題を見だし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学びである。」と示されている。

例えば、「健康によい食習慣の工夫」では、自身の一週間の生活時間と食事内容等を振り返って、栄養のバランスそれから運動、休養について課題を見いだして課題を設定し、それを改善する方法について考える活動などが考えられる。これは一例ではあるが、それぞれの指導内容においてどのような示され方をしているのか、しっかり研究をしていきたい。

◎ 英語の説明（調査・研究の視点と方法について）

坂田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【英語】」に基づき、説明を行った。

◎ 英語についての質疑・応答・意見交流

・坂井校長

外国語科の目標においては、言語活動を通して、資質・能力を育成することが強調されている。視点④に係る方法で、「複数の領域を関連付けた統合的な言語活動及び展開の具体例」について調査すると説明があった。「複数の領域を関連付けた統合的な言語活動及び展開の具体例」とはどういうものか教えてほしい。

・坂田校長

まず、「複数の領域」についてであるが、英語における領域は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと（やり取り）」そして「話すこと（発表）」という5つの領域である。英語では、この5つの領域について総合的に育てることが大切である。

そして「複数の領域を関連付けた統合的な言語活動」については、例えば、英語の電子メールを読んで、それに対する返事を書くという活動は、「読むこと」と「書くこと」という複数の領域を関連付けた統合的な言語活動及び展開となる。また、英語のビデオレターを見て、そこで尋ねられたことや依頼されたことについて、自分の考えや意見をまず英語でメモとしてまとめ、まとめ書きをしてそして発表するという活動であれば、「聞くこと」と「書くこと」とそれから「話すこと（発表）」という複数の領域を関連付けた統合的な言語活動及び展開となる。

◎ 道徳の説明（調査・研究の視点と方法について）

子川校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【道徳】」に基づき、説明を行った。

◎ 道徳についての質疑・応答・意見交流

・坪浦校長

視点③「考えを伝え合う活動の工夫」では、話し合いを促す示し方及び具体例について調査すると説明があった。自校の道徳の授業を見て回る中で、時々テーマに沿って生徒が議論している場面を見かける。改めて、道徳科における「考えを伝え合う活動」の意義を伺いたい。

・子川校長

資料の上段の道徳科の目標を御覧いただきたい。「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え」とある。この目標の実現に迫るためには、正に視点③にある「生徒が考えを伝え合う活動」が重要となる。

例えば、資料を読み他者と対話したり、協働したりしながら、生徒自らが、様々な視点から道徳的価値について考え理解できるようにしていく。

こうしたことから、視点③「考えを伝え合う活動」の意義は大きいと考える。そこで、教科書において、話し合いを促す示し方及び具体例がどのようなものか調査する。

・坪浦校長

よく分かった。意見ということで、いじめ問題とか不登校が全国的に増えている昨今の社会情勢を考えても、この道徳の授業の果たす役割は大きいと思う。ちょっと大げさに言えば、授業で道徳的価値について他者と議論して、自分一人では気付かなかった価値観を身に付けることで、その後の生徒の人生が大きく変わることさえありうると思う。今後の調査・研究に期待する。

・子川校長

仰る通り。しっかりやっていく。

◎ 全体を通して

・吉長教授

長年この選定委員会に参加させていただき、毎回、選定委員会の資料に基づいて調査・研究をしてくださる皆様方に労いをお伝えしたい。この時期、夏休みも控えて大変お忙しい時期にすごく労力もかかるのではないかと。労いをどこかで伝えたいと思っている。今日はその機会をいただきありがたい。

もう一つお伝えしたい。私の気持ちをちょっと聞いていただければと思うのだが、県教委が示している観点が5つある。私も教員の一人として大事に思って、もし、ウエイトをつけるとしたら、一番大事なのはやはり3番目の「主体的に学習に取り組む工夫」だと思っている。もし選定で同点決勝になったときに、どちらの評価というときには、おそらく方向論で定性評価、定量評価等、客観的な評価をしていただくわけだが、両方どちらもいいなというときにどこにウエイトを絞っていくかとなると、私だったら「主体的に学習に取り組む工夫」を見ていただきたい。どうしてかと言うと、生徒が主体的に学習に取り組むということになると、まず最初は教員が非常に授業を進めやすくなる。主体的に取り組むことによって彼らが課題を見つけてくる。

先ほど荒本校長が答弁で仰っていたが、最初に興味をもってその後自らの課題を見つけて

くると、我々はその受ける方の勢いからいくと、もっと仕事が増えて我々の知らないこともまた勉強しないといけなくなるので、学生たちも子どもたちも勉強するし、私たちが勉強していくという相乗効果が生まれる。「主体的に学習に取り組む工夫」を重点的に見ていただきたい。

この全体像から言うと、いわゆるSTEAM教育に関係した種目は、興味関心という言葉が多かったように思う。STEAM以外の種目は、問題解決から始まる視点や方法が多かったように思う。私は英語に訳してIOL, インタレストオリエンテッドラーニングということで、とにかく学生たちに色々なことに興味をもってほしい。そういう思いでいつも授業に携わっているものであることから、ここをちょっと強調したい。さりとてSTEAMの意義だと、Eは一般的にエンジニアリングだが、イングリッシュでも興味が大事だと考える。小学校では、今、英語も行われているが、好き嫌いの壁をうまく低くしてあげる。苦手意識を低くしてあげることに、我々教員は注力をしなければと思っている。

長々と申し上げたが、いずれにせよ、次回の委員会までに非常にたくさんの仕事をしていただく。調査・研究委員の方々によりしく願います。改めて感謝申しあげる。

・ 磯道保護者代表

呉の地域は僕の印象では、ものづくりの歴史があり、そういう技術とかそういう町というイメージだ。まだそういう工場もたくさんあり、人材も引き継がれていると思う。

例えば、技術の教科書の選定が、我が子、他の地域の子どもたち、子どもたちの実際の働く上での実務につながればいいなと思う。個人的には道徳だと規範意識、英語で言うと実際に外国の人としゃべれるとかそういったことが実現する教科書選定になればいいと思う。

・ 脇原保護者代表

話を聞いて子どもたちが自分から進んで発見して気付いて解決できるようにするにはどういった教科書がいいかということから選んでいただいているという話をたくさん聞かせていただいた。何となく自分たちの頃には与えられるものだったような気がするので、今はどちらかということ子どもたちが自分たちが気付いたところとか、気付けるよという感じで選んでいただいていると思う。今の形がいいなと、少しうらやましく思う。

そういう中で言うと、私がとても気になったのが、観点の一番最後の「内容の表現・表記」のところである。デジタルコンテンツに関する言葉があったと思ったので、教科書も子供のものを見せてもらったりすることがあるが、その時にQRコードがあり、新しい学習の仕方があると思う。まだ今、実際の授業の中ではあまり使われてるというのを我が子からは聞かないので、活用していけるような授業になったらいいと思う。どうぞよろしく願います。

◎ 中学校教科用図書の調査・研究の観点等については、原案通り調査・研究委員の部会へ示す承認を得る。

◎ 閉会

細川主査が次回の予定等について確認して、会を終了する。

令和6年度第2回呉市教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））

選定委員会 会議録

日時	令和6年8月9日（金） 13:30～16:30			
場所	生涯学習センター 407・408室			
参加者	選定委員会	呉市立中学校長会長	坪浦 敏美（広南中）	
		校長	坂井 峰子（警固屋中）	白井 良枝（川尻中）
			三谷 泉（蒲刈中）	工藤 孝之（両城中）
			高野 辰彦（安浦中）	松田 光弘（広中央中）
			浮田 秀樹（昭和の中）	小方 幸恵（東畑中）
			荒本 礼二（倉橋中）	坂田 恭一（呉中央中）
	小林 浩樹（和庄中）		子川 眞二（横路中）	
聴取 意見の	保護者代表	磯道 忠男		
	学識経験者	吉長 成恭		
教育委員会事務局	学校教育課長	木屋 善貴		
	学校安全課長	田村 峽平		
	学校教育課課長補佐	藤井 眞實		
	学校教育課主査	本谷 彰弘		
	学校教育課主査	細川 裕香		
	学校安全課主査	大栗 邦裕		
	学校教育課指導主事	岡田 武士		
傍聴者	佐々木 元（教育委員） 吉中 由美子（教育委員） 辻 佑子（教育委員） 大之木 小兵衛（教育委員）			
内容	1 第1回選定委員会の内容についての確認 2 調査・研究委員の部会についての報告 3 議事 ・総合所見の案について			

◎ 開会

細川主査の司会で委員会は定刻に始まった。

1 第1回選定委員会の内容についての確認（進行：議長 坪浦校長）

・藤井課長補佐

まず、第1回の選定委員会の内容について確認する。内容は、委員長及び副委員長選出と教科用図書の調査・研究の観点等についての2点であった。

1点目について、委員長には、坪浦校長が、副委員長には坂井校長が選出され、決定した。

2点目の教科書図書の調査・研究の観点等について、調査・研究委員に示す観点を「広島県教育

委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と説明した。

調査・研究の視点及び方法について、いろいろな御質問や御意見が出され、「原案通り調査・研究委員の部会に示す」ということで議決された。

また、6月26日（水）に開催した第1回調査・研究委員の部会において、この観点、視点、方法及び第1回の選定委員会の内容は、各選定委員の校長から、委員の先生方に説明された。

◎ 協議結果についての質疑・応答

特になし

2 これまで行われた調査・研究委員の部会についての報告（進行：議長 坪浦校長）

・藤井課長補佐

まず、本選定委員会が調査研究を指示している調査・研究委員の部会について報告する。「令和7年度第2回呉市教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））選定委員会一資料一」3ページの資料2「令和7年度使用教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程）の採択手続きについて）の「3 日程」。5月から8月のところにあるように、これまでに、調査・研究委員の部会を3回開催した。

第1回の調査・研究委員の部会は、6月26日（水）に開催した。

はじめに、教科用図書の採択手順及び調査・研究委員の任務等の説明を行った。その後、各部会で各選定委員の校長が、選定委員会で決定した観点等について説明した。そして、報告書を作成するための調査・研究の進め方を説明し、役割分担を行った。

第2回の調査・研究委員の部会は、7月9日（火）に開催した。第2回では、各委員が、役割分担した箇所を調査・研究した内容について全体に報告し、協議した上で、加筆・修正する作業を行った。

第3回の調査・研究委員の部会は、7月25日（木）に開催した。第3回では、第2回以降、各担当が加筆・修正した箇所について、全体で検討して修正を加え、視点ごとに主担当と副担当で、誤字・脱字等のチェックを行い、作業を完了した。その後、7月31日（水）、選定委員長坪浦校長に報告書が提出された。

その報告書をもとに、選定委員会各部会代表の校長が作成したものが、「総合所見（案）」である。この後、各部会代表の校長が提案する。

◎ 報告についての質疑・応答

特になし

3 議事（進行：議長 坪浦校長）

(1) 総合所見の案について

◎ 各自で資料を読んだ。（13時50分まで）

◎ 国語についての説明

坂井校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 国語についての質疑・応答・意見交流

・荒本校長

観点1「知識及び技能の習得」について、三省堂の情報の扱い方の単元が優れているとあったが、具体的にもう少し説明をしていただきたい。

・坂井校長

三省堂の第1学年の教科書を用意して、148ページを開いていただきたい。そこには、データとして2つ示されている。148ページ側に、1つ目「警戒レベルの種類の内容データ」。2つ目、149ページの「災害が起きたときに実際にとった行動についてのアンケート」は、家庭や地域を巻き込んだ防災教育の深化に向け、自分の命は自分で守る教育の推進を図っている本市の中学生にとって、なじみの深いデータであり、各校の委員会活動や総合的な学習の時間等で考えている内容であると考えている。

教科書のデータや資料を自分ごととして捉え、さらに、自校のデータと比較等していくことで、より質の高い授業展開が期待できると考える。

・小林校長

観点3の「主体的に学習に取り組む工夫」について、三省堂の「書く」と「話す・聞く」の複合単元の効果について教えていただきたい。

・坂井校長

本市の多くの中学校・義務教育学校では、第2、第8学年で実施されている職場体験の報告について、新聞やリーフレット、ポスター、プレゼンテーション等のように、何らかの成果物を伴って、実施されているかと思う。

その際、国語科において、体験したことを交流して整理した後、言葉を選び、発信に向けて書く活動を体験することにより、総合的な学習の時間等に教科横断的に取り組むことができると考える。

教科で学んだことを総合的な学習の時間等で生かしたり、また、総合的な学習の時間等の体験から明らかになった課題について、国語科で解決する手立てを学んだりすることができると思う。

話し合ったことを書いたり、またその逆に書いたものを伝えるために話したりする複合単元は、生徒と教師がともに目的意識、ゴールイメージを共有し、より主体的な学びとつながりやすいものだと考える。

◎ 書写についての説明

坂井校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 書写についての質疑・応答・意見交流

・松田校長

観点2「思考力、判断力、表現力等の育成」について、東書では、書体の使い分けによるイメージを視覚で捉えやすいとあるが、具体的に教えていただきたい。

・坂井校長

東書の教科書の62ページを開いていただきたい。楷書と行書を使い分ける単元において、インタビューでメモを取る場面と試験の申し込みを書く場面が設定されている。その場面で、楷書と行書の両方が示されており、実際に見て、どちらがよいかを考えることができるようになって

いる。

その際、63ページの「書写のかぎ」で各書体の特徴を示し、使い分けるポイントが示されている。これが63ページ下の「たしかめよう」で、再度、楷書と行書の使い分けについて考えるようになっている。最初に、書体の違いのイメージが書かれた用紙を通してつかんでおくということは、その後の場面の違い、目的の違い、相手の違い等で使い分けを判断する際の考え方をつかむことにつながると考える。

◎ 社会（地理的分野）についての説明

高野校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 社会（地理的分野）についての質疑・応答・意見交流

・坂井校長

観点2について、予測困難なこれからの社会を生きる子供たちにとって「理解していること・できることをどう使うか」という、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」が重要であると私も考えている。この「思考力・判断力・表現力等の育成」の各者の工夫について、もう少し具体的に説明していただきたい。

・高野校長

どの教科も同じだと思うが、「思考力・判断力・表現力等の育成」に当たって、生徒が「見方・考え方」を働かせる学習活動は必要不可欠である。どの者にも地理的な見方・考え方を明示し、生徒がそれを働かせやすくする工夫が見られる。中でも、帝国と東書によい工夫があるので、紹介をする。帝国は地理的な見方・考え方を働かせて、自分の意見をまとめたり、他者と意見交換したりする、「アクティブ地理AL」という特設ページが設けられている。帝国の214ページでは、京都の景観を保全するための取組や、また観光公害いわゆるオーバーツーリズムについて調べ、京都がこれからも魅力ある観光地であるために、どのような取り組みが大切か、観光客や住民などの立場から、自分の考えをまとめ、グループで発表し合う学びが組まれている。そして、ここでの見方・考え方の視点は、「場所」と「地域の特徴」であることが、左上に示されている。また、東書も同様の工夫が行われている。東書の76ページにあるように、東書は、世界の諸地域の節ごとのまとめに、「資料を活用する力をきたえよう」というページが設けられている。生徒が見方・考え方を働かせて、深い学びを促し、思考力・判断力等を育成するための工夫が行われている。具体的には、アジアの降水量を示す地図とアジアの人口密度を示す地図を比較して、アジアの降水量と人口にはどのような課題があるか、資料を比較して考えたり、またシャンハイに人が集まっている理由を、中国の一人当たりの地域別総生産額の地図を使って説明するなど、資料を結びつけて考えたりしている。こうした工夫により、生徒の「思考力・判断力・表現力等の育成」に効果が期待できると考える。

◎ 社会（歴史的分野）についての説明

三谷校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 社会（歴史的分野）についての質疑・応答・意見交流

・坂田校長

観点3の「主体的に学習に取り組む工夫」の説明の中で、東書には「個人活動とグループ活動を往還的に組み合わせている」という説明があったが、これについて、もう少し具体的に教えていただきたい。

・三谷校長

東書の98ページ、章の導入のページの右下に、「みんなでチャレンジ」として3つの活動が示されている。まず、個人活動で南蛮人の来航の絵と江戸城の絵に、どのような人々が描かれているか、それぞれ読み取る活動が設定されている。次に、グループ活動で南蛮人の来航の絵で描かれている様子と関連の深いイラストを、99ページにある年表から選び、どのような関連があるかを説明する活動が設定されている。さらに、再びグループ活動に戻り、7つの資料を参考にしながら、前のページと比べて、この時代になって変化していること、変化せずに続いていることはそれぞれ何かを、話し合う活動が設定されている。こうした工夫により、生徒は、個人で思考した内容と協働的な学びで得た内容を踏まえて、往還的に学習することができ、個で考えをもち、グループで話し合うことを踏まえ、考えを整理したり広げて深めたり、個で考えたことを再構成したりする活動を通して、より主体的な学びにつながりやすいと考える。

◎ 社会（公民的分野）についての説明

三谷校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 社会（公民的分野）についての質疑・応答・意見交流

・白井校長

観点3の説明の中で、学習の見通しをもたせる工夫として、各節での問いを軸に、課題解決できるようにしているとあったが、具体的にはどのような工夫か教えていただきたい。

・三谷校長

東書、教出、日文の3者について説明する。教科書をご覧いただきたい。まず、東書の130ページ、131ページを開いていただき、131ページの右下に、第4章の探究課題が示されている。その上に、探究のステップというところがあるが、そこに各節での問いがそれぞれ示されている。

教出の130ページ、131ページを開いていただき、131ページの下に、学習の見通しとして、章全体のテーマと、それぞれの節の問いが示されている。

次に、日文の128、129ページ。129ページの下に章の問いと、それぞれの節の通りが示されている。

このように、各節の問いを考えながら、探究課題や章全体の解決に向かう、学習の見通しを視覚的にもたせる工夫がされている。

◎ 地図についての説明

高野校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 地図についての質疑・応答・意見交流

・荒本校長

観点4「内容の構成・配列・分量」の中に防災教育の記載がある。この防災教育については県

の選定資料にはない視点だが、「自分の命は自分で守る」防災教育を推進している呉市にとっては大変重要であると考えます。防災教育の視点で、この両者の違いをもう少し具体的に説明をお願いしたい。

・高野校長

中学校学習指導要領解説社会編には、日本の様々な地域の学習における防災教育の重視が示されており、「自然災害に対応した人々の暮らしの在り方を考えることは、我が国で生活する全ての人々にとって欠くことのできない『生きる力』である」と述べられている。

また、平成30年7月豪雨で甚大な被害を受けた本市においても、現在、防災教育の深化を重点として取り組みを進めているところである。

帝国は、それぞれの地方ごとに防災に関する資料図が掲載してあるのが特徴である。例えば、九州地方では、島原半島の火山災害、中国四国地方では、広島市付近の水害、近畿地方では神戸の地震災害、中部地方では富士山の噴火などである。

さらに特徴的なのは、日本の自然災害・防災についての表記である。東書の135ページをご覧いただきたい。ここで2ページにわたって、日本地図と、これまでに発生した大規模地震、或いは倉敷市真備地区の平成30年7月豪雨の様子と、浸水推定図、ハザードマップ、そして自然災害への備えが示されている。

一方、帝国は、日本の自然災害・防災については、4ページにわたって掲載されている。159ページをお開きいただきたい。ここでは、日本地図と、これまでに発生した大規模地震だけでなく、我が国を取り巻くプレートとその移動方向や地震発生のメカニズム。昨日も地震があったが、過去の南海トラフ地震が示されている。さらに161ページ、ここには、線状降水帯の仕組みや台風のしくみ、過去の主な台風の進路等が掲載されている。

これらの気象や災害の原因となっている線状降水帯や、南海トラフ地震について、詳しく掲載されていることから、防災教育の深化に向けて、大きな役割が期待できると考えている。

◎ 数学についての説明

浮田校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 数学についての質疑・応答・意見交流

・三谷校長

観点2の、東書、学図、啓林館、数研の欄にある「導入で多様な表現ができる工夫がある」というのは、具体的にどういうことか教えていただきたい。

・浮田校長

東書の2年生の教科書、大日本の2年生の教科書を出していただきたい。東書の96ページ、大日本の108ページを開いていただきたい。

どちらも既習事項を使って、多角形の内角の和を調べる場面で、大日本については、五角形に限定され、さらに三角形を3つに分けて内角の和を考えている。東書は四角形と五角形を同時に示している。求め方を限定していない。四角形と五角形を同時に提示することによって、三角形だけではなく四角形の内角の和が360度ということを使いながら、そして五角形は三角形3つ

だけでなく、三角形1つと四角形1つに分けて、 $180^{\circ} + 360^{\circ}$ と計算して求めることもできるという生徒もいる。このような形で、多様な表現ができる工夫があることで、生徒の話し合い活動も充実すると考えている。

◎ 理科についての説明

荒本校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 理科についての質疑・応答・意見交流

・松田校長

観点3について、どの者にも探究の過程が示されているとあるが、具体的には教科書にどのように示されているか教えていただきたい。

・荒本校長

理科の目標においては、自然の事象・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育てることが求められている。

東書を例にすると、第1学年の巻頭にある、③に、「探究の流れを確認しよう」というタイトルで「探究の過程」が見開きで示されている。①問題発見、②課題、③仮説とどんどん進み、最後に⑧ふり返り・活用という、これが一連の流れになる。

例えば、授業では、こうした「探究の過程」を大きく印刷して黒板に貼ったり、ワークシートを作る際に、「探究の過程」に沿ったものにしたたり、生徒に意識させたりする工夫は、これまでもしているが、とはいえ、「探究の過程」というのは、生徒にとってはなじみにくいというのが事実である。

それを踏まえて、改めて③のページ、東書の③ページの上段①、問題発見のところに、「好奇心をもって、身のまわりを見てみよう。」というポイントが示されている。これだけでは生徒は、どうすることが好奇心をもって見ることなのかということがイメージしにくいかもしれない。そこで、その横に、描かれた漫画を御覧いただきたい。身近にある塩、砂糖、小麦粉があるが、これが区別できるかという生徒の疑問がある。この素朴な疑問をもつ生徒の会話からスタートしている。こうした工夫によって、生徒は、この場面からどのような見方をすることが求められているのかイメージしやすくなり、こういう漫画によって「探究の過程」を自力で進めていく助けとなることが期待できる。

もう1つ、啓林館を紹介する。啓林館の巻頭、④ページ。④ページの上半分に「探究とは」と題して「探究の過程」が図式で示され、下半分には、「ごま塩の粒の不思議」ということで、これも漫画形式で、具体的な生徒同士の会話例が示されている。先ほどの東書と同様、こうした工夫によって、生徒は「探究の過程」全体をイメージしやすくなると考える。

・松田校長

「主体的に学習に取り組む工夫」について、東書にはフローチャートが示されているとあった。示されることで生徒にとってどのようなよいことがあるかを教えていただきたい。

・荒本校長

東書の第1学年の巻頭、ページが③を見ていただきたい。一般的には「考察」というのは、「実験・観察」を行った後に、そこで得られた結果を分析解釈して、「何が言えるのか」という結論を

導き出す段階を示している。理科の授業では、生徒は、観察・実験は意欲的に行うが、そのあとの考察の段階になると、何を考えたらいいかということが曖昧で、思考が停滞しがちになるということがよくある。そこで、引き続き4ページの上段に「考察はここをおさえよう」というコーナーがあり、フローチャートがある。そのフローチャートを見ていただくと、左上に実験の目的は何か、というところから始まって、矢印でどのように思考を進めていけばよいかを示されている。

例えば、授業で考察させる段階で、このページを見るように生徒に指示し、フローチャートに沿って、思考を整理させることで、生徒自身がどのように考えることが適切な考察なのかというのが明確になり、生徒自身が納得して、「探究の過程」を進めることができると考える。

◎ 音楽（一般）についての説明

小林校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 音楽（一般）についての質疑・応答・意見交流

・白井校長

観点2「思考力、判断力、表現力等の育成」で、創作分野における音楽表現を創意工夫させるための工夫を、先ほど説明していただいたが、実際には、どのように創作するのか教えていただきたい。

・小林校長

音楽1の教出38ページ、教芸20ページを見ていただきたい。教出の題材は「日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう」となっている。「言葉の抑揚を生かした」とは、例えば、あおいというの、あおいですね。それを音に合わせると「ソラソ」になる。こういった、言葉の抑揚を生かして旋律をつくっていく。

教芸の20ページでは、課題や条件に沿って創意工夫して旋律をつくる。17ページのところに、「リズムチャレンジ」というのがあるが、ここでまずリズムをつくって、それをもとに、20ページ、21ページに、条件の和音に合うように、音のつながり方を考えて旋律をつくっていく。その際、「2小節目の2分音符に向かって跳躍進行で大きく上行したからハッとしたよ。」という吹き出しの部分があったが、考える観点や工夫の仕方が示されて、どの生徒にも分かりやすい。

◎ 音楽（器楽合奏）についての説明

小林校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 音楽（器楽合奏）についての質疑・応答・意見交流

・坂田校長

観点4で、教科書で扱われている楽器の紹介があったが、いろいろな楽器が出てきたが、実際、呉市の中学校で今、主に使われている楽器は、どんなものがあるのか教えていただきたい。

・小林校長

アルトリコーダー、篠笛、太鼓といったものが、思いつかれたのではないと思う。また、器楽アンサンブルや創作活動の授業では、小学校で使っていたトライアングル、タンブリン、カス

タネットといった打楽器を使うこともある。本校においては、コロナで合唱やリコーダーができなかった頃は、太鼓を結構使っていた。また、本校区に、結構神社が多く、お祭りが盛んなところなので、子供達は篠笛をやっていた。

◎ 美術についての説明

白井校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 美術についての質疑・応答・意見交流

・坂井校長

観点5「内容の表現・表記」について、三者ともに、各題材や巻末資料等に、二次元コードが示されていると記述されているが、美術の場合は、どのような資料が提供されているのか、また、活用すると、どんな効果があるのかということをお教えいただきたい。

・白井校長

光村の美術1の20、21ページの二次元コードを読み込んでいただくと、学習の参考となる映像資料等が提供され、生徒が主体的、効果的に学習を進めることができる。

特に光村には、鑑賞中心の題材に二次元コードが示されていて、「体感ミュージアム」のページで、「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏場」の鑑賞ページである二次元コードを読んでいただくと、作品を拡大したり書き込んだりできる「書き込みツール&高精細画像」や「印象派」の解説動画、鑑賞を広げる言葉集にアクセスすることが可能である。多様なコンテンツを視聴することによって、学習指導要領にもあるが、鑑賞の視点が豊かになり、見方や考え方を広げたり深めたりするなどの資質・能力を育成することに効果がある。期待ができる。

今見ていただいた、大きなところであるが、これを細部に渡って見ることができる。高精細画像で、小さなところをどのようなタッチで書かれているかを見ることができる。

◎ 保健体育についての説明

工藤校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 保健体育についての質疑・応答・意見交流

・三谷校長

観点2に「事例が挙げられており、生徒が具体的な場面をイメージしながら、学習したことを活用して考えることができ、生徒の思考を促しやすい。」とあるが、どのようなことか教えていただきたい。

・工藤校長

例えば、東書37ページ、学研の53ページをお開きいただきたい。

ここには、1時間のまとめとして、東書は「活用する」、学研は「学びを生かす」の欄を設け、学習したことを生かして考える課題が設定されている。

例えば、東書を見てみると、この見開きでは性に関する適切な態度や行動の選択について学ぶわけだが、そうした学習内容を受け、「活用する」では、具体的な事例が示され、背景や問題点を

話し合うよう促されている。ただ単に「まとめましょう」と示されるより、こうした課題に取り組むことで、生徒は、学んだことを生かして思考しやすくなると考えている。

◎ 技術・家庭（技術分野）についての説明

松田校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 技術・家庭（技術分野）についての質疑・応答・意見交流

・荒本校長

観点2の「思考力・判断力・表現力等の育成」に関する説明の中で、東書と開隆堂については、各内容の冒頭で見方・考え方に気付かせる工夫がされているということだが、この2者の特徴的なところを教えていただきたい。

・松田校長

東書の方は、26ページ、27ページをご覧いただきたい。開隆堂も26ページ。

東書は、技術の見方・考え方について、26ページの左下の方に書いてある、四角の枠、左のような四角の枠の中で、「環境への負荷は少ないかな」とか、「材料や構造の工夫は」とか、「デザインは」といった吹き出しを用いて、生徒に問いかけをするような表記となっており、生徒に考えさせるような内容となっている。

開隆堂は27ページの方の真ん中あたりに、製品を見てみよう材料と加工の技術の見方・考え方というところに出ている。

開隆堂については、その例では、雑誌ボードになっている。具体的な製品を示して、願いや要求が具体的に示されている。それらがどのように最適化されているか、例示がされている。

技術は子供たちが初めて習う教科なので、社会において、技術がどのように最適化されているのか、具体的な事例を理解した上で学習を進めることができると考える。

・小林校長

観点2に、どの者も、実習例という記載があるが、もう少し教えていただきたい。

・松田校長

東書は、72ページ、73ページの左の方に、1の問題の発見、課題の設定とあり、自分なりの課題を設定しようとする。その上で、解決策の構想、そこで設計とか計画をする。

それから、73ページに製作、評価、改善・修正、そして、5番目に新たな問題の発見、といった流れで示されている。また、その下のもっと問題解決というところで、その他の実習例を紹介していくという形になっている。

教図は、54ページから60ページまでが、1つの実習例になっている。この実習例の中に、材料、設計図、加工の仕方、組み立て。そういったものが例示されている。62ページ、63ページで、その他の実習例が紹介されている。

開隆堂は、62ページ、63ページに実習例1として、「小さなスペースで机の上を整理・整頓できるマルチラック」ということで、マルチラックを作る流れが書いてある。流れは、見開きのページの真ん中にピンクの四角が4つほどあり、一番最初が問題の発見と課題の設定、設計、製

作、評価・改善というように、流れがわかるようになっている。62ページの上に、部品表というのがあるが、実際に物を作る場合、どういった部品や材料を使ってということがいるので、この部品表により、現実的にはこんなことがいるのだなとイメージをして、学習することができると思う。

3者ともこのようにパターンを決めて、表示をしている。

◎ 技術・家庭（家庭分野）についての説明

小方校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 技術・家庭（家庭分野）についての質疑・応答・意見交流

・坂井校長

観点2の「思考力、判断力、表現力等の育成」について、東書で「まとめと発表の仕方」で、生徒の作品例が説明や発表例ともに掲載されていると説明されたが、その具体的な例を教えてください。

・小方校長

東書の272ページから、「生活の課題と実践の進め方」が掲載されている。276ページから、281ページでは、生徒が実践したことをまとめたレポート、生徒が実際に書いた新聞、ポスター等が掲載されている。276ページの左側には、課題を解決していくための実践の流れを示している。そして、その右側に流れに沿ってまとめたレポートを掲載している。277ページでは、プレゼンテーションソフトウェアを活用した発表の仕方が掲載されている。278ページから281ページにも、生徒が実践したことをまとめたレポート、生徒が実際に書いた新聞、ポスター等が掲載されている。こういった例を参考にしながら学習を進めていくことで、「思考力、判断力、表現力等の育成」につながっていくものと思う。

◎ 英語についての説明

坂田校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 英語についての質疑・応答・意見交流

・白井校長

観点4「内容の構成・配列・分量」に関する説明の中で、いくつかの発行者において、音声と文字との関係を段階的に学習できる活動が設定されているとあったが、このことについて、教科書ではどのようにになっているか、具体的に示していただきたい。

・坂田校長

導入期において、音声と文字との関係を段階的に学習できる活動が設定されている。

東書と光村と啓林館について具体を説明する。3者の教科書、第1学年を御覧いただきたい。

東書は、音声と文字との関係を学習できる活動を「Sounds and Letters」として設定している。

8ページと9ページの「Sounds and Letters 0」では、英語の音と文字、18ページの「Sounds and Letters 1」では、2字1音の音、母音字の名前読み、26、27ページの「Sounds and

Letters 2」では、さまざまな母音①、38、39ページの「Sounds and Letters 3」では、さまざまな母音②、最後に、50、51ページの「Sounds and Letters 4」では、音と文字のまとめといったように音声と文字の関係を段階的に学習できるように設定されている。

次に、光村の18ページに、Let's Be Friends。ここは、例えば、アルファベットジングルとって、A, a, apple と言って発音し、音と文字の関係からスタートする。次に、20ページの「Sounds and Letters」では、1で子音字、2で母音字、Let's Try で子音字と母音字のミックスにチャレンジし、母音字の異なる読み方と2文字の子音字を学習する流れになっており、音声と文字の関係が、段階的に学習できるように設定されている。

最後に、啓林館の8ページでは、音声と文字の関係を学習できる活動をLet's Start 3、英語の文字と音を確認しようとして設定している。8ページから10ページに、1から10の活動を位置付け、音声と文字の関係を段階的に学習できるように設定されている。

このように東書と光村と啓林館の三者では、導入期において、音声と文字との関係を段階的に継続して学習できるよう活動が設定されている。

また、東書の18ページのところに、挿絵と吹き出しを使って、音と文字との関係を考えながら学習できるようになっている。

◎ 道徳についての説明

子川校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 道徳についての質疑・応答・意見交流

・三谷校長

観点4のところで現代的な課題で「いじめ問題」についてじっくり考えるように、複数の教材がユニット化されているとあったが、どのようなものか教えていただきたい。

・子川校長

東書と日文の第3学年の教科書で説明する。

東書の23ページに、いじめ問題をテーマとした三本の教材でユニット化した「いじめのない世界へ」が設けられている。このように、いじめ問題を直接的に扱う三本の教材を通して、いじめを多面的・多角的に考えられるようになっている。

次に、日文の26ページ。扉ページの導入部分から、「いじめ」について考えるきっかけが得られるように構成されている。まず、28ページ「いじめを間接的に扱った教材」があり、32ページ、33ページには、いじめ防止のスキルを身に付けるコラムが設定されている。34ページからは、「いじめを直接的に扱った教材」、40ページ、41ページには、その教材について考えを深めさせるための学習内容が例示され、42ページ、43ページの「いじめの防止」の知識を深めるコラムが設定されている。このように複数教材がユニット化されていることで、いじめについて多様な視点から考えることができるようになっている。そして総合所見についての報告でも触れたが、日文はユニットが年間で複数配置されていることから、呉市で年間2回実施されている「いじめ撲滅キャンペーン」と関連させるなど、カリキュラム・マネジメントの観点からも、「いじめ問題」について効果的に取り組むことができると考える。

・坂田校長

観点3について「問題解決的な学習」は「道徳科の質の高い多様な指導方法」として効果的だと聞いているが、この「問題解決的な学習」とはどんなものか教えていただきたい。

・子川校長

道徳科における「問題解決的な学習」とは、生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的、多角的に考え、主体的に判断し、実行し、よりよく生きていくための資質・能力を養う学習である。例えば、日文の第2学年の教科書70ページの「ヨシト」という教材は、主人公の幼馴染み「ヨシト」がクラスメイトから「変わっているやつだ。」と陰口を言われているのを知り、主人公が「ヨシト」に対するクラスメイトの見方がおかしいと思いつつも言えないという教材である。この教材の中で起こっている主人公の心の葛藤や人間の弱さ等に気づき、そのような道徳的な問題の解決に向けて、74ページの①にあるように「何が問題になっているのか考えよう。」のように、生徒自身の考えや根拠を問う発問を投げかけたり、③の「周りに流されたり自分と異なる人を排除したりして公正な態度がとれないことがあるのは、なぜだろう。」のように、問題場面を実際の自分に当てはめて考えることを促す発問をしたりすることで、自己の生き方に関する課題に積極的に向き合い、自分の力で考え、よりよいと判断して、行為しようとする意欲を培うことができると考える。

◎ 全体を通して

・吉長教授

感想を述べさせていただく。

今日の調査・研究報告書を基に作成された総合所見について、委員には、大変ご苦勞されたことに感謝申し上げます。どの者の教科書も大変魅力的で、専門性をもって、形成的な評価を客観的に研究していただいたのだらうと思う。一長一短、全てよい教科書だと思う。

私、中学校というと60年前。この教科書だったら、今、これをまた読みたい、わくわくするような教科書ばかりである。

専門性をもって、先生方に、今後、これらの教科書で教育していただける。本当に子供たちが幸せだなという気がした。

・礒道保護者代表

皆さん、真剣に教科書を選定されているなと思った。社会の歴史を見ていたが、絵がたくさんあって、分かりやすいのだが、ただ、子供がいる立場なので、受験勉強に対応して、学校の勉強を中心にやれば、よい成果が出るみたいなのところにもつなげていただきたいと思う。

◎ 総合所見の案を基に、教育長に報告することについて承認を得る。

◎ 閉会

・細川主査が会を終了した。